

学習内容報告書 フォーマット

学校名	竹富町立大原中学校
授業者	浜崎俊介 波照間碧 玉城久

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

見つめ、伝えよう西表島 考えよう未来

1-2. 学年

全学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間（結いぬ海科） 生徒会活動（ビーチクリーン）

1-4. 単元の概要

- ・大原中学校三大行事「古見岳登山」
- ・前年度から継続している「マイクロプラスチック調査」
- ・3年生の体験ダイビングと1, 2年生の「自然体験活動(シュノーケリング)」
- ・全校生徒で取り組む「ビーチクリーン」
- ・今年度の活動報告「竹富町海洋教育サミット」
- ・キビ植えから収穫まで行う「サトウキビ作業」

1-5. 単元設定の理由・ねらい

・「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を活用する」という4つの観点に基づく活動を通して、海に関する知識と体験を得て、自分たちと海との関係を身近に感じ、海が抱える課題を自分ごととして捉え、地球規模の視野で主体的に海にかかわることができるようにする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・西表島の貴重な自然に触れながら、ふるさとの自然や環境保全に関わっていこうとする意欲や態度を養う。

1-7. 単元の展開（ 1.2年全 38時間・3年全 48時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
11	<p>大原中三大行事「古見岳登山」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢集団の班を構成して班ごとに事前にテーマを設定して本番に臨む。 ・事前学習で AED や心肺蘇生等の救急対応について学ぶ。 ・事後学習で班のテーマを振り返り発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関（ガイド・林野庁・西表森林生態系保全センター・西表交通等）との連絡調整。
8	<p>マイクロプラスチック調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に近海の魚の体内にマイクロプラスチックが混入しているのかをさばいて調査する。 ・事前学習で海洋ゴミについて専門機関の出前授業やオンライン授業を行う。 ・調査結果を受けて、班ごとに振り返り考察をたてて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関（環境省国際サンゴ礁研究モニタリングセンター・GODAC）との連絡調整。 ・地域人材に協力を仰ぎ、魚を集めてもらう。（ミジュンとコウフ） ・事前学習を受けて、調査結果の予想を班で話し合い、調査結果を基に考察をたてることができるか。
3年 6 1.2 年 2	<p>3年生の体験ダイビングと1,2年自然体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容を踏まえつつ、西表島の自然に実際に触れることで、その貴重さを実感し「海を守るため」にできることを考える。 ・ダイビングでサンゴ周辺の砂を持ち帰り、マイクロプラスチックが入っていないか調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関（ダイビング協会・地域の観光ガイド）との連絡調整。 ・自然体験活動（シュノーケリング）の前に道具の使い方や海での注意事項等を周知するための講習会を設定する。
2	<p>ビーチクリーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、竹富町の海洋教育クリーン旬間にあわせて全学年で地域の海岸の清掃を行う。 ・集めたペットボトルゴミがどこの国のものか国別で分別し集計する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹富町役場との連絡調整。 ・ペットボトル国別調査用紙の作成。 ・GODACの海洋ごみのAI分析に協力。
6	<p>竹富町海洋教育サミット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動の報告を竹富町役場で行う。スライドを作成し、発表する。 ・活動の発信として、パンフレット（500部）とステッカー（400枚）を作成し、西表島の観光施設や港、竹富町役場に置いてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各機関（竹富町役場・大原港・石垣離島ターミナル・西表観光等）へパンフレット設置の協力要請。 ・活動報告の仕方を班ごとに決めて発表し、全員で話し合っって発信方法を決定する。
10	<p>サトウキビ作業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の恩恵を受けて育ったサトウキビを地域の協力の下、収穫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関（キビ農家や製糖工場）との連絡調整。 ・開拓前の先人たちの追体験としてできる限り手作業で行う。 ・「働くこと」とは何か。キャリアに結びつける。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

・魚をさばいて体内にマイクロプラスチックがあるのか調査しよう。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
※前時までには、班ごとにマイクロプラスチックが魚の体内にあるのか。あるならどれくらいなのか。を予想を立てている。	※事前に魚・道具を職員室前フロアに班ごとに準備しておく。
1・教室にて集合し、授業の導入で各班、調査の予想を確認する。	・前時までの活動を確認して、各班自分たちの予想を確認させる。
2・魚のさばき方の手順の説明。注意事項を伝える。	・カッターを使うので、安全面での注意を徹底させる。
3・フロアに移動して、調査開始。 ・一人2匹ずつ（ミジュンとコウフ）をさばく。 ・胃の内容物を黒いシートに載せてピンセットでマイクロプラスチックがあるか目視で探す。	・魚の内容物を見て気分が悪くなった生徒以外は全員がさばけるように魚を振り分ける。 ・マイクロプラスチックとみられるものがあればシャーレに写す。
4・片付け	・ある程度の片付けを終えたらすぐに教室へ移動を促す。魚は唐揚げにしてみんなで食べる。
5・教室に戻り、結果の記入と考察。 予想は当たっていたか。 調査結果から考えられることは何か。	・予想を踏まえて、結果から考えられることを話し合わせる。
6・班ごとに発表。振り返り。	・各班の発表をうけて「新たな問い」や気づきを生み、次年度以降の活動に繋がられるようにする。

3. 今回の活動の自己評価

今年度の本校の海洋教育（結いぬ海科）は、三大大行事（古見岳登山）担当・生徒会担当と協力しながら取り組むことができた。授業の展開や外部との連携、物品の購入等もそれぞれ分担して行えたのでスムーズに活動を終えることができた。

「海を知る」活動において、学習・図書委員会が海関連の本のコーナーを設置し、その本を読んで出た気づきを付箋に貼る活動を行い、保健・給食委員会は給食時間に海関連の情報を伝える等、生徒会中心となって委員会が動くことができた。

昨年度の活動の延長として「マイクロプラスチック調査」を行うなかで、地域の協力を得ながら活動を行うことができた。

今年度の活動の発信方法を生徒が話し合っただけ、観光客や地域の方に知ってもらうためにパンフレットやステッカーを作成し、港や交通機関、郵便局等に設置して情報発信することができた。

4. 今後の課題

次年度の三大大行事が仲間川筏下りで、筏作成に時数を多く必要とするため、今年度に比べて海洋教育に関する活動を精査し、活動に工夫が必要であること。（今年度と同程度の活動時間が確保できないため。）

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・特になし。（写真の掲載可能）

※実施した单元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。